



被ばく医療人材育成 推進プロジェクト

プロジェクト概要

弘前大学大学院保健学研究科では、国内外との関係機関との協力・連携のもと、「被ばく医療人材の高度専門化」と「放射線基礎教育の充実と底辺拡大」を柱とした教育プログラムを開発します。具体的には、国際標準に準拠した高度実践看護師制度や日本看護協会が認定する専門看護師を視野に入れた被ばく医療人材育成の拠点を形成し、新たに高度実践的な大学院教育プログラムを構築します。

また、学校教員及び教職選択学生に対する放射線リスクコミュニケーション教育を行うことで、放射線基礎教育の充実と底辺拡大を図ります。さらに、被ばく医療においては長期的な健康管理が必要となることから、放射能拡散地域の環境影響調査や生物学的影響調査・研究を行い、その結果を教育へ還元するとともに、必要な際には地域あるいは地域住民へ報告を行います。

被ばく医療教育研修部門

現職の看護師・診療放射線技師等のための短期研修の場として、被ばく医療研修を開催しています。eラーニングによる事前学習を含む教育プログラムを実施し、緊急被ばく医療に関する基礎知識の講義とシミュレーション演習を展開しています。

浪江町支援部門

保健学研究科では、福島第一原子力発電所事故の影響により起こった健康問題の解決等に向けて、連携協定を締結している福島県浪江町で様々な支援活動をしています。

放射線看護教育部門

大学院博士前期課程の「放射線看護高度看護実践コース」における教育を行うとともに「放射線看護教育支援センター」を設置し、現職看護職者等を対象に放射線看護セミナー等の開催や相談活動を行います。

放射線リスクコミュニケーション教育部門

放射線リスクコミュニケーションに携わる専門職及び学生に対するリカレント教育、一般市民を対象とした啓発活動など、将来的な人材育成を目指した場面を提供します。

グローバル人材育成推進部門

国内外の被ばく医療関連機関との人的交流、学術交流を積極的に進めることで、保健学研究科教員の国際性を涵養するとともに、外国人留学生の大学院入学を推進し、緊急被ばく医療および放射線科学に関して近隣諸国との連携を強化します。

お問い合わせ

弘前大学大学院保健学研究科

<https://www.hs.hirosaki-u.ac.jp/hibakupj/>

〒036-8564 青森県弘前市本町6番地1 電話：0172-39-5905 Fax：0172-39-5912

E-mail：hh_hh@hirosaki-u.ac.jp

被ばく医療教育研修部門

概要

当研究科では、平成22年度から現職の看護職と診療放射線技師を対象として、緊急被ばく医療の基礎的知識と技術の研修を行う短期教育プログラム(被ばく医療研修)を実施しています。

本研修には、それぞれの専門を被ばく医療という点から深める講義と、他職種連携に関する講義・演習が組まれており、演習の後半には被ばく事故を想定した被ばくおよび汚染を伴う傷病者の受け入れ演習を実施いたします。近年は新型コロナウイルス(COVID-19)の感染予防の観点からオンライン開催も併用しており、状況に応じて実施方法を決定しています。

被ばく医療研修

〈目的〉

現職の看護職・診療放射線技師を対象として、緊急被ばく医療に必要な知識を取得し、連携・協議しながら適切な対応かつ安全管理ができる医療職者を育成する。

〈募集人数〉

合わせて20名程度

〈教育プログラム〉

(令和4年度 オンライン開催)

講義：原子力災害におけるこころのケア

原子力災害と放射線事故

放射線災害から復興の道のりと現状

演習：サーベイメータの取り扱い(VR演習)

皮膚の汚染部位の除染

防護服着脱方法

ゾーニング

汚染・被ばくを伴う患者の受け入れ対応

*全プログラム受講者には修了証を発行

〈演習の様子〉



演習 「汚染・被ばく医療患者受け入れ体制づくり」

汚染・被ばくを伴う患者の受け入れの演習に備えた準備をしていただきます。事例の説明をもとに、緊急被ばく医療体制のチーム編成と各自の役割、受け入れの手順等について話し合いをしていただき理解を深めます。



演習 「汚染・被ばくを伴う患者受け入れ」
外部汚染のある患者の搬入から一般病室への退室までの一連の流れについて演習を行います。

〈受講者数〉

年度	R1	R2	R3	R4
修了証授与者数 (全プログラム受講者数)	14	—*	31	26

※コロナ禍のため未開催

〈特徴〉

- ・eラーニングでは、放射線に関する基礎的知識や緊急被ばく医療の原則、防護服の着脱や創傷部位の除染方法などについて学習します。
受講生の方々からは「繰り返し見ることができる」「動画で確認できてよかった」等の感想をいただいています。
- ・演習「除染・防護服着脱方法」は、全ての受講者が参加する形式で実施しております。その他、創傷汚染の除染や創傷汚染のサーベイを実施しますので、これらの手技を体験・習得できます。
- ・福島の実状に関する講義を開講しています。事故後の対応・食品汚染や健康問題・こころのケアなどについて理解を深めることができます。

放射線看護教育部門

概要

放射線看護教育部門では、大学院博士前期課程での「放射線看護専門看護師」を目指した教育を行うと共に、放射線看護セミナー等を開催し、現職看護職者への放射線看護教育を支援しています。また、平成29年度からは保健学研究科に「放射線看護教育支援センター」を設置し、放射線看護分野の確立と発展に向けた活動を展開しています。

主な活動

放射線看護教育支援体制の構築

「放射線看護専門看護師」の教育と修了生の輩出、看護職者や看護教員を対象とした放射線看護セミナー等の研修会の開催、放射線看護教育の支援、教育参入大学に対する支援等

①「放射線看護高度看護実践コース(博士前期課程)」の教育実践

平成27年度から博士前期課程に「放射線看護高度看護実践コース」を開設し、平成29年2月には日本看護系大学協議会から専門看護師の放射線看護専攻教育課程の認定を受けました。本コースでは、放射線看護の高度看護実践者として「被ばく医療における看護」ならびに「医用放射線利用に伴う看護」をサブスペシャリティとする放射線看護専門看護師を養成しています。令和4年2月には、日本看護協会の専門看護分野としての「放射線看護」が新たに特定され、令和4年度から「放射線看護」分野の認定審査が開始されています。

《サブスペシャリティの紹介》

被ばく医療における看護

被ばく医療の拠点となる医療機関の受け入れ体制を整える中心的役割となることが期待されます。また、放射線被ばくや防護に関する専門知識を持つ専門職者として住民の健康管理および放射線リスクコミュニケーションができる人材、さらに原子力災害における活動に留まらず放射線事故や核テロへの対策についても準備・対応できる人材育成を目指しています。

医用放射線利用に伴う看護

放射線診療を受ける患者や家族などの安全・安心のために放射線に関する専門的知識に基づき医療被ばくや公衆被ばく・職業被ばくの低減・放射線の身体影響を有する患者や放射線被ばくへの不安を持つ対象者に対して水準の高い看護が提供できる人材の育成を目指しています。

②研修会等の開催

平成25年度から看護職者や看護教員を対象に放射線看護に関するセミナーや研修会を開催しています。今後も継続して国内における数少ない放射線看護の教育拠点として放射線看護や教育に携わる方々への教育支援を行っていきます。



X線照射による放射線線量を測定する演習



高密度の金属を用いた放射線の遮いを学習する演習

放射線リスクコミュニケーション教育部門

概要および目的

リスクコミュニケーションとは、個人または集団間で情報や意見をやりとりすることにより、相互にリスクについて意思疎通を図ることをいい、これにより、リスクに関する意思決定を促す役割があります。そのリスクコミュニケーションを行うためには、リスク事象に関する科学的知識、聴く力、言語表現による伝達技術など多くの能力が必要とされます。では、放射線についてはどうでしょうか？放射線は私達に様々な恩恵をもたらす一方で、悪い影響をもたらすリスクもあります。しかし、放射線リスクコミュニケーターへの育成は現状ではまだ確立していません。本部門は、放射線リスクコミュニケーションに携わる専門職及び学生に対するリカレント教育、一般市民を対象とした啓発活動など、将来的な人材育成を目指した場を提供しています。

人材育成を目指した場面の提供

- ・ 教養教育「放射線リスクコミュニケーションの理解」(平成28年度～)
- ・ 学部教育「公衆衛生看護学演習Ⅰ」(平成26年度～)
- ・ 学部越境型教職科目「教職実践演習」(平成25年度～)
- ・ 大学院教育「放射線看護学特論」(平成27年度～)
- ・ ワークショップ「はじめての放射線リスク・コミュニケーション in 弘前大学」(令和4年度)
- ・ 放射線リスクコミュニケーション教育部門講演会(平成25年度～)

教育プログラム開発

- ・ 放射線実験機器を用いた「放射線の特性実験」
- ・ 認識が多様であることを理解する「Yes or No カードゲーム」
- ・ 家族事例のグループ演習「バーチャル家族ロールプレイ」
- ・ 空間線量を測定しながらリスクの軽減を踏まえて日常生活を工夫する演習「日常生活 With Risk MAP」

大学が連携協定を締結している事業への教育的参加

- ・ 浪江町復興支援「出張相談窓口」への参加
- ・ 放射線リテラシー醸成の教育プログラム「サロンなみっぐる」への協力
- ・ 浪江町老人クラブを対象とした「健康づくり支援」への参加
- ・ 復興支援員を対象とした「メンタルヘルス・セミナー」
- ・ 自治体職員を対象とした「健康相談」



グループ演習「バーチャル家族ロールプレイ」



浪江町復興支援「出張相談窓口」

グローバル人材育成推進部門

概要

国内外の被ばく医療関連機関との人的交流、学術交流を積極的に進めることで、保健学研究科教員の国際性を涵養するとともに、外国人留学生の大学院入学を推進し、緊急被ばく医療および放射線科学に関して近隣諸国との連携を強化します。

目的

1. 若手研究者・学生間の教育研究における国際交流とその支援体制を構築し、これを発展させる。
2. 国際交流、連携体制を自らつくることのできる人材育成を支援する。
3. 海外からも参加可能な被ばく医療人材育成教育プログラムを整備する。
4. 被ばく医療コースや放射線看護専門看護師コースでの留学生を受け入れる。

活動実績・計画

- 若手研究者のための放射線と健康に関する国際シンポジウム(ESRAH)の開催
- 韓国原子力医学院(KIRAMS)との核テロまたは原子力災害対応のための国際合同訓練に参加
- ストックホルム大学における放射線科学トレーニングコースへの若手研究者派遣
- 大学院生への国際学会・研究会等への旅費支援
- 大学院生に対する国際学術誌への掲載料の補助および論文の英文校閲料の補助
- チェンマイ大学(タイ)医療科学部スタッフを招いての保健学ワークショップの開催
- ヤウンデ第一大学(カメルーン)との二国間交流セミナーの開催と若手研究者の招へい
- ハワイ大学高機能シミュレーションセンターでの災害看護研修への参加
- 海外から第一線の研究者を招いた先端放射線科学講演会の開催



ESRAH2019の教育講演(左)とポスター討論の様子(右)



韓国原子力医学院での訓練の様子



ストックホルム大学での放射線生物学のトレーニング



浪江町支援部門

概要

福島第一原子力発電所事故の影響により起こった健康問題の解決等に向けて、連携協定を締結している福島県浪江町で、以下の様々な支援活動をしています。

支援活動には学生も参画しており、学ぶ機会につなげています。

活動紹介

浪江町職員への健康相談とリスクコミュニケーション

町役場内で役場職員の方を対象にした健康相談を実施しています。相談だけでなく、体組成や血管年齢などの測定も行っています。



子育て支援活動

浪江にじいることも園主催の子育てサロン「ほかほかテラス」で、ハンドトリートメント等を通して、子育て中のお母さま方のリラクゼーションやリフレッシュを支援する活動を行っています。



浪江町民の動脈硬化予防に関する支援事業

災害復興期における動脈硬化性疾患の早期発見・予防を中心とした健康支援活動を行っています。



浪江町民に対するリスクコミュニケーション活動

被ばく医療総合研究所ならびに被ばく医療連携推進機構との連携のもと、町の復興や地域の課題解決へ向けたリスクコミュニケーション活動を行っています。



大学院のコース紹介

被ばく医療コース・放射線看護高度看護実践コースのご紹介

大学院保健学研究科では、「被ばく医療コース」と「放射線看護高度看護実践コース」を設置し、汚染対策や除染、線量測定、放射線災害時の医療支援対応や被ばく患者の看護など、被ばく医療に特化した医療専門職の人材養成を目指しています。

1. 被ばく医療コース（博士前期課程・後期課程）

【博士前期課程被ばく医療コース】

放射線にかかわる緊急被ばく事故に備えることができる人材として、緊急被ばく医療に関する高度専門職やリーダーを養成するとともに本分野の学問の発展に貢献できる教育者・研究者を育成します。

*本コースの修了者には「被ばく医療認定士」の称号が付与されます。

【博士後期課程被ばく医療コース】

放射線にかかわる緊急被ばく医療における高度な教育者および研究者を養成し、本分野の学問の発展に貢献できる人材を育成する。

*博士前期・後期両課程の被ばく医療コース修了者には「被ばく医療指導士」の称号が付与されます。

*本コースには定員や人数制限等の定めはありませんが、修士・博士論文のテーマは放射線に関連した内容に限定されます。

2. 放射線看護高度看護実践コース（博士前期課程）

放射線被ばくや放射線防護に関する高度な専門知識・技術を基盤とし、施設や地域における個人や集団の放射線被ばく防護対策に従事すると共に、放射線被ばくに関連した複雑な健康問題を持つ個人、家族および集団に対して高度看護実践を行うことのできる人材の育成を目指します。

*本コースの修了者には「放射線看護高度実践看護師」の称号が付与されます。